

# ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり



発達障害のみならず、障害により教育上特別の支援を必要とする児童生徒の実態は一人一人異なっており、個々の実態に合わせた「オーダーメイド」の支援の充実が求められます。しかし、教室における支援の第一歩は個別の支援の充実ではなく、学級全体が落ち着き誰もが安心して過ごせる「クラスづくり」と、最後まで子どもたちを引きつけ誰もが安心して学べる「授業づくり」を充実させることです。

令和元年度第3回「管内特別支援教育充実研修会」では、桃山学院教育大学 教授 松久眞実先生に「ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり」について、ご講演いただきました。

授業づくりは「フランス料理」でなく、「家庭料理」。気合いを入れて特別な準備をするのではなく、大きな負担なく継続してできる指導の工夫について具体的な指導の在り方を学びました。

松久先生の講義を踏まえながら、教室で簡単にできる指導支援の工夫を紹介します。

## 低刺激の教室に！

教室には様々な刺激があり、刺激が多いと子どもたちは興奮します。興奮すると刺激が刺激を呼び、どんどん騒がしくなったり集中できなくなったりして、トラブルに繋がってしまう…。そんなことはありませんか。低刺激の教室にするためには、「視覚的刺激」と「聴覚的刺激」を減らすことが必要です。

### 「教師の言葉を見直そう」

教師が長々と説明しても、言語の力に弱さが見られる子どもにとっては、どの言葉が大切でどの言葉が必要でないかを判断しにくく、長い言葉はかえって有り難迷惑なことも…。また、「口癖が多い」「語尾が明瞭でない」など話し方や、「早く」「もうちょっと」「きちんと」など、曖昧な表現での説明の仕方が、子どもたちが理解しづらい原因になっている場合があります。

教師の基本と言える「わかりやすい指示」ができていないか、見直してみましょう。

- ◆簡潔な短い言葉で指示や説明を
- ◆緩急をつけて話す
- ◆間を取る
- ◆声のトーンを変える

重要な部分はゆっくり、少々聞き流して良いところは早口でなど。

「怒っている」「興奮している」子どもたちを落ち着かせる時には、静かな低い声で話すことが効果的です。

### 「静寂の時間を増やす」

#### ◆「サイレントモード」の導入

音は音を呼びます。教室が騒がしくなると子どもたちが興奮状態になる前に、活動の節目にクールダウンの時間を導入してはいかがでしょうか。サイレントモードの時間は、短時間一切おしゃべりしない時間です。「〇秒間、サイレントモードです。5・4・3・2・1 スタート！」など、ゲーム的に取り入れたり、「3秒で息をすって6秒ではきます」などのルールを決めたりすると効果的です。

### 「教室の環境を整えよう」

「目から入る刺激」が多いと集中しにくくなることへの理解は広がっており、すでに各校での取組が進んでいます。学年のスタートに、もう一度教室の環境を確認してください。

- ◆黒板の周りの掲示物は必要最低限に
- ◆机に出すものはできるだけ少なく
- ◆板書の掲示物は精選
- ◆板書のチョークは白と黄色が基本  
(赤色チョークは読みにくい場合があります。)
- ◆教室内の整理整頓を心がける

### 「非言語で補おう」

教師の言葉を減らす分、非言語や視覚支援で補い教師のメッセージを伝えます。大切なのは「好意に満ちた眼差し」で「先生はいつもあなたを見ているよ」のメッセージを一人一人の子どもに届けることです。机間指導にも非言語を取り入れることができます。

- ◆アイコンタクト  
(一人一人と視線を合わせ、笑顔で!)
- ◆ジェスチャー

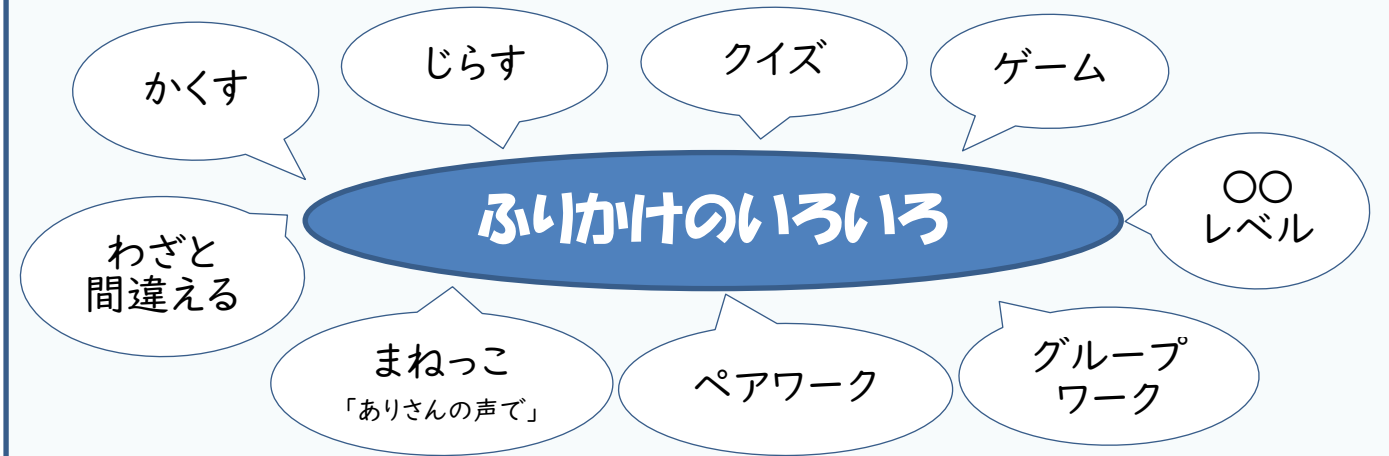


#### ◆カード等による視覚支援



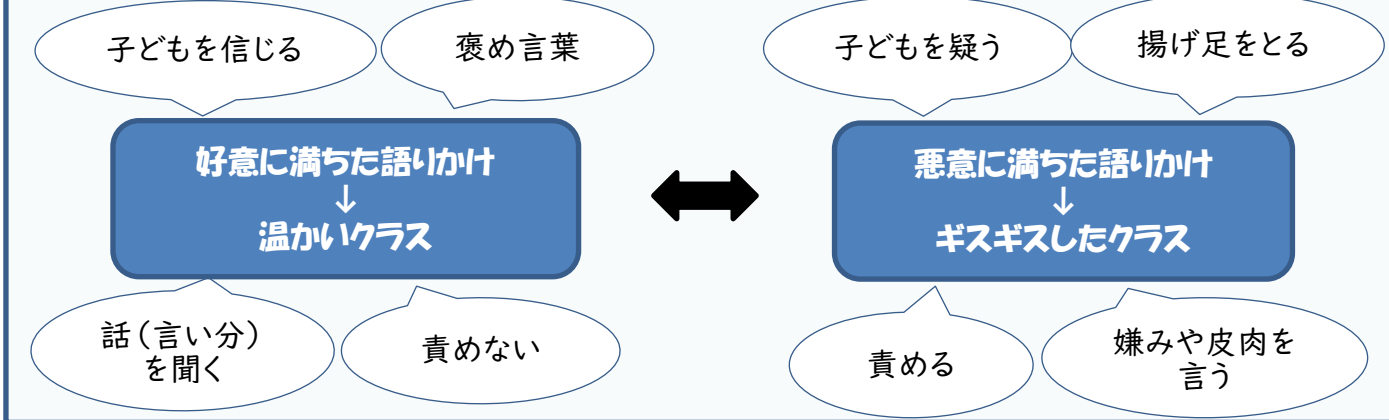
## 子どもたちをひきつける「ふりかけ」を！

子どもたちが学ぶことに面白さを感じる「魅力ある授業づくり」のためには、もちろん教材研究が不可欠です。しかし、「毎日食べる白ご飯でも、ふりかけをかけると食べる意欲を誘う」ように、教師が指導技術を身につけ、ちょっとした工夫(ふりかけ)を行うことにより、集中の切れかけている子どもたちを授業に引き戻したり、集中力を向上させたりすることもできるのではないのでしょうか。ICT機器の活用も効果的です。お互いに授業を見合うことにより、個々の先生の技を自分の授業に取り入れてみましょう。



## 好意に満ちたクラスづくり

支援の必要な児童生徒が安心して過ごせる学級は、その子にとっても安心して過ごせる学級です。教師の立ち居振る舞い、視線、声かけは学級の子供たちに様々な影響を与えます。教師のさりげない支援を子どもたちはモデルにします。子どもたちへ語りかける言葉をもう一度見直してみましょう。



### ～参加された先生方の感想～

- ・一人一人のニーズに合った支援をする必要があることがよくわかった。特に印象に残ったのは、信頼と安心という言葉。「信頼なきものからは学ばない、安心なきところでは学べない」しっかりと心にとめておきたい。
- ・「ユニバーサルデザイン」と聞くと、何か特別なことをしなければならないという印象を受けるが、講演を聞いて少しの工夫で誰もがUD授業を作れるのだと勇気をもらった。
- ・毎日の授業のために、一工夫や一時間でできる工夫がたくさんあったが、自分はハード面よりソフト面で努力しないといけないと思った。教師の立ち居振る舞い、褒め方、しかり方、わかりやすい指示の出し方などを変えていかなければならない。
- ・学級経営の話はそのとおりだと大変共感した。周りの子どもたち、手をさしのべようとする子どもたちを認め、学級の中で位置づけることの意義を考えさせられた。もう少し話が聞きたかった。

※講演いただいた松久眞実先生は、「あったかクラスづくり～通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイン～」(明治図書)など著書も多く執筆されています。ご参考になさってください。